

令和5年度
袖ヶ浦市郷土博物館の
運営に関する点検と評価

令和6年7月
袖ヶ浦市郷土博物館

1. はじめに

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、博物館の設置及び運営上の望ましい基準第4条第2項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』（別添資料）に基づき、令和5年度の博物館運営について点検と評価をしようとするものである。

袖ヶ浦市郷土博物館では、平成24年7月に策定した『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』の10年の成果を受け、開館40周年の節目において、点検・評価内容を確認・修正し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』を提示した。そではくが地域博物館として果たす4つの使命を遂行するための7つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして35項目のあるべき姿を設定し、博物館活動の点検と評価を行っていくものである。この35項目のあるべき姿をもって－そではく35の展望－とした。

◎地域博物館として果たす4つの使命

- ①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- ②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- ③市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- ④博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

そではくは、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の4点を使命とします。

2. 評価の方法

- ・「35のあるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の4段階で表示

- ◎：目標値に対して100%以上の達成率
- ：目標値に対して80%以上100%未満の達成率
- △：目標値に対して60%以上80%未満の達成率
- ×：目標値に対して60%未満の達成率

- ・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動目標ごとの平均値を出し、A、B、Cの3段階で評価

- A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）
- B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）
- C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。（18点未満）

3. 令和5年度「そではく35の展望」博物館事業 点検・評価結果

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	1件	◎
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	3回	5回	◎
3項目 ◎3 90点 平均値 30点				評価A	
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④	ロビー展示の開催回数	2回	5回	◎
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤	企画展アンケート実施回数	2回	2回	◎
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥	ホームページで資料の公開件数	3件	4件	◎
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦	ジュニア学芸員体験の実施回数	1回	1回	◎
	5.調査研究の成果が公開されている。展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件	2件	◎
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。展望⑨	考古学専門講座講師との情報交換件数	3件	5件	◎
6項目 ◎6 180点 平均値 30点				評価A	
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩	常設展示の展示替え	1回	1回	◎
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件	1.5件	○
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均5,000人	7,337人	◎
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬	市民学芸員自主企画展実施回数	5回	4回	○
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭	QRコードの活用	1件	1件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。展望⑮	ミュージアム・フェスティバルでのボランティアの延べ人数	135 人	198 人	◎
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。展望⑯	企画展・講座でのアンケート調査件数	3 件	2 件	△
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。展望⑰	ホームページ更新件数	25 回	25 回	◎
	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。展望⑱	図書室利用件数	10 件	14 件	◎
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。展望⑲	レファレンス件数	45 件	48 件	◎
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130 件	132 件	◎
11 項目 ◎ 8 ○ 2 △ 1 290 点 平均値 26.4 点 評価 A					
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。展望㉑	市民学芸員・友の会の会員数	105 人	106 人	◎
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。展望㉒	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	5 回	10 回	◎
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。展望㉓	公民館講座への協力・講師派遣	3 件	10 件	◎
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。展望㉔	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人	延べ 51 人	○
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。展望㉕	他団体との連携事業の実施回数	3 回	3 回	◎
5 項目 ◎ 4 ○ 1 140 点 平均値 28 点 評価 A					
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望㉖	施設の安全点検の実施回数	12 回（月 1 回）	12 回（月 1 回）	◎
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望㉗	福祉施設見学受け入れ件数	30 件	49 件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(5)安心・安全な施設にする —施設の維持管理と来館者への配慮—	3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望⑳	防災訓練の実施回数	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	◎
3項目 ◎ 3 90点 平均値 30点			評価A		
(6)博物館の社会的役割を意識する —地域への貢献—	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望㉑	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	1回	2回	◎
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望㉒	市民学芸員養成講座実施回数	10回	11回	◎
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望㉓	高齢者学級等への協力回数	1回	1回	◎
3項目 ◎ 3 90点 平均値 30点			評価A		
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす —自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望㉔	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	2回	◎
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望㉕	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	7回	◎
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望㉖	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	1回	◎
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望㉗	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎
4項目 ◎ 4 120点 平均値 30点			評価A		

令和5年度評価結果 ※ () は令和4年度

◎ : 31項目 (27項目)、○ : 3項目 (4項目)、△ : 1項目 (2項目)、× : 0項目 (2項目)
7つの活動目標のうち、A評価7、B評価0、C評価0

②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

4. それでは35の展望 取り組み状況

I 活動目標	(1) 地域の資料を守る－資料の収集と保管－
II あるべき姿 1. 収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望① 2. 市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望② 3. 地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	
III 令和5年度の取り組み内容 あるべき姿1 (35の展望①) ・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃前後 湿度60%以下 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後 ・収蔵環境調査(7月から11月の間で2回) ①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③酸・アルカリ調査 ④有機酸濃度測定調査 ⑤屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ) 結果：ゴキブリ・イガ類・タバコシバンムシ・ヒメマルカツオブシムシ幼虫の生息が本館各所で見られ、資料への被害が懸念される。(1回目) 民俗展示室・第2収蔵庫でチャタテムシ類、映像展示室でキクイムシ類、歴史展示室・荷解室でゴキブリの生息を確認(2回目) 第2収蔵庫 酸性傾向、チャタテムシ類が生息、カビ類が収蔵庫を除く館内全体に多く浮遊 ・収蔵庫内清掃、資料整理実施 ・資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施 ・第2収蔵庫の空調更新工事を実施 あるべき姿2 (35の展望②) ・旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え ・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた 1,323点 ・収蔵資料の修復委託 ：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～) 31点実施 799/1,132点 ：遺跡から出土した鉄製品の劣化を抑えるためのパッキング作業 あるべき姿3 (35の展望③) ・寄贈・寄託資料の受入れ ：新規寄贈資料件数13件 ・寄託から寄贈への移行 1件 ・古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 5回、購入3件	

Ⅳ 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	1件	◎
3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	3回	5回	◎
◆成果・効果 あるべき姿1（35の展望①） ・日常的な管理により適切に保管している。 ・害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。1回目の調査結果を受けて防虫テープやトラップを増設し、若干の改善が見られた。 ・資料整理や清掃を行い、資料の現状把握をすることができた。 ・資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。 ・第2収蔵庫の空調更新工事により、安定した収蔵環境を維持することが可能になった。 あるべき姿2（35の展望②） ・古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。 ・封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。 ・入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。 ・新収蔵古文書のデータベース化を進めた。 ・鉄製品の劣化を遅らせる対応を行うことができた。 あるべき姿3（35の展望③） ・市内外からの寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。 ・市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。				
◆課題 あるべき姿1（35の展望①） ・第3収蔵庫について、現状の空調機では老朽化による問題があることが以前から指摘されていたが、たびたび不具合が発生している。その都度対症的な処置で維持してきたが、それでは対応しきれないほど老朽化が進んでいる。				

- ・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題が多い。
- ・施設の老朽化により館内に侵入する虫が増えている。
- ・第2収蔵庫は酸性傾向が続いているが、空調更新工事を実施したので、環境が変化している可能性があり、経過観察を要する。
- ・資料の館内持ち込みルール of 徹底

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。
- ・新収蔵古文書の活用のための目録が必要。
- ・第3収蔵庫は飽和状態のため、さらに省スペース化を進める必要がある。
- ・限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数が限られる。

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料が出てきている。
- ・返却した目録掲載資料については、現状を把握する必要がある。

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・第3収蔵庫の空調機を更新する必要がある。更新工事までの期間収蔵庫内の環境を保持するために、環境の変化をいち早く察知できるように観察を続け、必要に応じて迅速に除湿機の増設やスポットクーラー等の導入ができるように準備をする。
- ・収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。
- ・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。
- ・第2収蔵庫は空調更新工事の後、R6年度に防虫処理を実施する。(チャタテムシ類は駆除)
- ・第2収蔵庫について、フィルム等酸性に傾いた資料の調査を徹底する。
- ・資料の館内持ち込みルールの見直し

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・古文書の読める作業者の確保
- ・市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録刊行へ向けて作業を進める。
- ・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。
- ・劣化しやすい近現代文書を中心に、古文書等の収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。
- ・鉄製品に関しては計画的に科学的な保存処理を行う必要がある。

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・市外流出資料については、引き続き調査を行う。
- ・現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。

I 活動目標 (2) 地域を探り、発信する ー調査研究と成果活用ー

II あるべき姿

1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④
2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。

る。展望⑤

3. 地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥

4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦

5. 調査研究の成果が公開されている。展望⑧

6. 高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができている。展望⑨

Ⅲ 令和5年度の取り組み内容

あるべき姿1 (35の展望④)

- ・各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。
- ・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開
 - ：企画展Ⅰ「井出先生の写真館」開催
 - ：企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」開催、図録刊行
- ・『袖ヶ浦市史研究』第22号原稿募集
- ・ロビー展示の開催 5回
 - ：博物館実習展示【そではく×実習生合同企画】「関東大震災から100年」
 - ：トピックス展示「新指定文化財展」
 - ：千葉県博物館協会巡回展示『地域の魅力再発見「ちばの博物館」』
 - ：紫微宮星座呪符木簡展示
 - ：万葉こどもまつり『みんなでお絵描き』作品展

あるべき姿2 (35の展望⑤)

- ・企画展に伴うアンケートの実施 2回
- ・市民学芸員・友の会員を対象としたニーズ調査の実施
- ・テーマを設定した調査研究の実施
 - ：袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査、古代の植物利用に関する調査
- ・収蔵資料の精査
- ・市民学芸員と協働での企画展調査の実施

あるべき姿3 (35の展望⑥)

- ・博物館ホームページ上で収蔵資料の公開 4件
 - ・古文書のデータベース化 1,323件
 - ・会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成
 - ・収蔵資料の活用・公開
 - 閲覧 36件・資料貸与 2件・写真資料掲載 許可取り扱い 16件
 - ・埋蔵文化財ポジフィルムスのデジタル化 13遺跡分
- (平成16年度～平成29年度まで委託により実施令和2年度からは会計年度任用職員により実施)
- ・近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。
- (会計年度任用職員雇用)

あるべき姿4 (35の展望⑦)

- ・調査研究の成果を生かし、企画展「袖ヶ浦の外来種」を開催した。

- ・ジュニア学芸員体験と合わせ、袖ヶ浦公園周辺の生物について調査を行った。

あるべき姿 5 (35 の展望⑧)

- ・地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。
- ・企画展による新たな価値の創造
：企画展Ⅰ「井出先生の写真館」

開催期間中のアンケート等による情報収集と随時の展示更新から生まれる双方向性のある展示の実現

- ：企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」

イラスト等を多用し、低年齢の子どもたちにもわかりやすい展示の実現

- ・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。
- ・企画展チラシ・図録について、利用者に対し展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。
- ・常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。
- ・入館者数 3館合計 38,812 人

(内訳：本館 26,661 人、アクアラインなるほど館 649 人、旧進藤家住宅 11,502 人)

あるべき姿 6 (35 の展望⑨)

- ・専門研究者から袖ヶ浦市史研究への応募 12 人
- ・講座での専門研究者の発表
：袖ヶ浦学、考古学講座
- ・企画展へ向けた資料調査に係る先進の研究者による助言
- ・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成
：博物館実習生 1 名

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④	ロビー展示の開催回数	2 回	5 回	◎
2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤	企画展アンケート実施回数	2 回	2 回	◎
3. 地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥	ホームページで資料の公開件数	3 件	4 件	◎
4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦	ジュニア学芸員体験の実施回数	1 回	1 回	◎
5. 調査研究の成果が公開されている。展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2 件	2 件	◎
6. 高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができている。展望⑨	考古学専門講座講師との情報交換件数	3 件	5 件	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望④)

- ・市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。
- ・散策マップ等により、市内に限らず市外・県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。
- ・生涯学習課や県博協といった他機関と連携し、ロビー展示をタイムリーに開催することができた。

あるべき姿2 (35の展望⑤)

- ・アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた
- ・市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。
- ・考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。
- ・企画展「出羽三山」に向けて市民学芸員と協働で調査を実施し、その成果を展示で活用することができた。

あるべき姿3 (35の展望⑥)

- ・寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。
- ・埋蔵文化財写真のデジタル化を会計年度任用職員により実施した。
- ・資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた民具の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。
- ・ホームページでの資料公開は4件公開することができた。
:紫微宮星座呪符木簡・井出先生の写真館番外編「ある日の横田駅」・戦争関係資料「宗政武夫の遺品」・出羽三山信仰関係資料

あるべき姿4 (35の展望⑦)

- ・企画展で、袖ヶ浦の自然環境についての調査成果を公開することにより、さらなる情報収集や調査の機会へつなげることができた。
- ・ジュニア学芸員体験は5年継続して実施し、データを蓄積することができた。

あるべき姿5 (35の展望⑧)

- ・『袖ヶ浦市史研究』第22号の原稿募集により、幅広いジャンルにわたる研究者の研究成果を集約することができた。市職員からの応募も増えた。
- ・調査研究の成果を企画展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。
- ・袖ヶ浦学等の講座により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。

あるべき姿6 (35の展望⑨)

- ・講座等での講演などを通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。
- ・次代を担う新たな学芸員を育成することができた。
- ・資料閲覧で来館する研究者や袖ヶ浦学の講師等に袖ヶ浦市史研究での執筆を紹介する等、積極的に交流を試みた。

◆課 題

あるべき姿 1 (35 の展望④)

・館蔵資料や情報についての整理が追い付かず、来館者の疑問に対しては個別対応となることが多く、専門職員が足りないため、対応が後回しになることがある。

あるべき姿 2 (35 の展望⑤)

- ・来館しない市民のニーズ調査ができていない。
- ・他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保や継続的に取り組むことが難しい。

あるべき姿 3 (35 の展望⑥)

- ・データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない
- ・所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。
- ・近年受け入れた民具の整理に時間を要する。

あるべき姿 4 (35 の展望⑦)

- ・専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。
- ・蓄積されたデータについて、公開する必要がある。

あるべき姿 5 (35 の展望⑧)

- ・市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。
- ・インターネットや SNS 等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。
- ・継続した研究体制ができていない。

あるべき姿 6 (35 の展望⑨)

- ・交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。
- ・外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料への理解や情報整理を進めておく必要がある。

◆今後の対応

あるべき姿 1 (35 の展望④)

- ・引き続き地域資料や情報の収集及び整理に努め、わかりやすい情報提供の実施をはかる。
- ・市民学芸員とも連携し、散策マップや情報シート等のさらなる充実をはかる。

あるべき姿 2 (35 の展望⑤)

- ・来館しない市民へのニーズ調査を工夫する必要がある。
- ・事業のスクラップアンドビルドも検討し、調査研究できる状況を確保できるように努める。

あるべき姿 3 (35 の展望⑥)

- ・より活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。
- ・博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。
- ・返却された資料の現況調査の必要がある。
- ・近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。
- ・収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。
- ・埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。

あるべき姿 4 (35 の展望⑦)

- ・引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。

- ・報告書の刊行等、蓄積されたデータの公開方法について検討し、実施へ向けて準備する。

あるべき姿 5 (35 の展望⑧)

- ・学芸員資格を持つ者を中心に、本市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ヶ浦学での研究発表者を募る。
- ・インターネットや SNS 等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。

あるべき姿 6 (35 の展望⑨)

- ・これからも袖ヶ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。
- ・袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。

I 活動目標 (3) 学習・知的交流の拠点になる ー展示更新と情報発信ー

II あるべき姿

1. 市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩
2. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪
3. 地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫
4. 常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬
5. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できようになっている。展望⑭
6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。展望⑮
7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。展望⑯
8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動の P R が継続されている。展望⑰
9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。展望⑱
10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。展望⑲
11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。展望⑳

III 令和 5 年度の取り組み内容

あるべき姿 1 (35 の展望⑩)

- ・常設展示の通史展示（近現代）を部分的に更新した。
- ・調査研究の成果の一環として企画展を開催した。

あるべき姿 2 (35 の展望⑪)

- ・地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。
- ・企画展による新たな価値の創造
 - ：企画展Ⅰ「井出先生の写真館」
開催期間中のアンケート等による情報収集と随時の展示更新から生まれる双方向性のある展示の実現
 - ：企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」
イラスト等を多用し、低年齢の子どもたちにもわかりやすい展示の実現
- ・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。
- ・企画展チラシ・図録について、利用者に対し展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。

- ・常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。
- ・入館者数 3館合計 38,812 人
(内訳：本館 26,661 人、アクアラインなるほど館 649 人、旧進藤家住宅 11,502 人)

あるべき姿 3 (35 の展望⑫)

- ・地域資料を有効活用し、企画展を開催した。
：企画展 2 回
- ・企画展入館者数 14,674 人
：内訳 R4 企画展Ⅲ 2,493 人 (4 月 2 日～4 月 18 日)
企画展Ⅰ 8,198 人
企画展Ⅱ 6,476 人
- ・企画展・常設展示での収蔵資料活用 3 件
- ・ロビー展示 3 回

あるべき姿 4 (35 の展望⑬)

- ・市民学芸員自主企画展示を行った (4 回)
：七夕展示
：旧進藤家住宅ひな人形展示
：旧進藤家住宅五月人形展示
：秋の万葉こどもまつり「みんなでお絵かき」作品展
- ・企画展「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」の開催に向けて、企画展ワーキンググループを結成し、調査・研究等の活動を行った。
- ・友の会盆栽の会による盆栽展を行った。

あるべき姿 5 (35 の展望⑭)

- ・すべての来館者が展示を理解できるように、QRコード等の活用により、補足的な説明手段の検討

あるべき姿 6 (35 の展望⑮)

- ・ミュージアム・フェスティバルを開催した。
：ミュージアムフェスティバル入場者数 1,639 人
- ・講座「袖ヶ浦学」 5 回開催
- ・公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。 5 回

あるべき姿 7 (35 の展望⑯)

- ・企画展等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかリサーチした。

あるべき姿 8 (35 の展望⑰)

- ・ホームページ・ツイッターを利用した PR 活動や情報提供。
ホームページ更新回数 25 回
- ・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。

あるべき姿 9 (35 の展望⑱)

- ・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス
- ・図書室での図書閲覧やコピーサービス
- ・図書室を利用しやすいように整備した。
図書室利用件数 14 件
- ・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターに提供した。

あるべき姿 10 (35 の展望⑲)

- ・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。
レファレンス件数 48 件

・問い合わせが多かった鎌倉街道については、マップを作成した。 あるべき姿 11 (35 の展望⑩) ・市民学芸員や友の会員は、研修室・体験学習室・図書室等を活用し、グループ活動を行った。 活動件数 132 回				
IV 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩	常設展示の展示替え	1 回	1 回	◎
2. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2 件	1.5 件	○
3. 地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫	企画展・特別展見学者数	1 回の見学者平均 5,000 人	7,337 人	◎
4. 常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬	市民学芸員自主企画展実施回数	5 回	4 回	○
5. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭	QR コードの活用	1 件	1 件	◎
6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。展望⑮	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	135 人	198 人	◎
7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。展望⑯	企画展・講座でのアンケート調査件数	3 件	2 件	△
8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動の PR が継続されている。展望⑰	ホームページ更新件数	25 回	25 回	◎
9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。展望⑱	図書室利用件数	10 件	14 件	◎
10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。展望⑲	レファレンス件数	45 件	48 件	◎
11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130 件	132 件	◎
◆成果・効果 あるべき姿 1 (35 の展望⑩) ・常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。				

あるべき姿 2 (35 の展望⑪)

- ・企画展Ⅰは、展示した写真についての情報をアンケートにより収集し、それにより得た情報を素早く展示に還元することで、また新たな情報の共有につながるとともに、リピーターの獲得にもつながった。内容も、地域住民にとって身近なテーマであり、多くの共感を得た。
- ・企画展Ⅱは、ポスター・チラシの動物イラストが好評で、子どもたちにも理解しやすく、多くの家族連れの来館者を得た。内容もはく製や標本を多く用いてわかりやすくする工夫がされていた。
- ・企画展Ⅰは図録の作成はしなかったが、理解の補助になるように関連年表を印刷して配布したため、0.5 とした。

あるべき姿 3 (35 の展望⑫)

- ・地域資料を有効活用した企画展やロビー展示の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。
- ・自然系の企画展の開催により、新たなユーザーを開拓できた。
- ・関東大震災 100 年や新指定文化財等、時節や最先端の話題に対応したロビー展示を開催した。

あるべき姿 4 (35 の展望⑬)

- ・市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。
- ・企画展ワーキンググループは、チームや個人で調査研究を重ね、企画展の開催につなげることができた。
- ・盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。

あるべき姿 5 (35 の展望⑭)

- ・万葉植物園の歌碑にQRコードを設置した。(20 種)

あるべき姿 6 (35 の展望⑮)

- ・袖ヶ浦学は地域資料を多く活用し、関東大震災 100 年に関連した回をはじめ、時節にあったものや話題性のある内容などで、多くの参加者を得た。
- ・これまで、公民館は利用するが博物館へは来ることがなかった公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。

あるべき姿 7 (35 の展望⑯)

- ・アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。
- ・他の社会教育施設の状況を知ることで、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。

あるべき姿 8 (35 の展望⑰)

- ・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた

あるべき姿 9 (35 の展望⑱)

- ・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。
- ・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。
- ・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターと共有することができた。

あるべき姿 10 (35 の展望⑲)

- ・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。
- ・利用者からの質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。

あるべき姿 11 (35 の展望⑳)

- ・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。

◆課 題

あるべき姿1 (35の展望⑩)

- ・将来的に新たな展示構想を改修計画とあわせて検討する必要がある。
- ・常設展示への市民の意向については、あまり把握できていない

あるべき姿2 (35の展望⑪)

・利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収蔵資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。

- ・資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。
- ・昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示に増やす必要がある。
- ・家族連れに人気の生物関係展示について、常設展示にも取り入れることを検討する必要がある。

あるべき姿3 (35の展望⑫)

・職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。

あるべき姿4 (35の展望⑬)

・展示・企画ができる市民学芸員に限られ、負担も大きいものとなっている。

・盆栽の会以外の友の会員もミュージアムフェスティバル以外に展示の機会を検討する必要がある。

あるべき姿5 (35の展望⑭)

- ・展示やホームページに多言語対応ができていない。
- ・館内のインターネット等の電波状況が悪い。
- ・外国人が展示を理解できるような展示解説などの多言語化が進んでいない。

あるべき姿6 (35の展望⑮)

- ・博物館に全く来ない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。

あるべき姿7 (35の展望⑯)

・アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。

あるべき姿8 (35の展望⑰)

・PR 活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。

・SNS 等に関する職員の知識が不足している。

あるべき姿9 (35の展望⑱)

- ・物流ネットワークについては今一つ利用が促進されてない。
- ・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。

あるべき姿10 (35の展望⑲)

・質問・相談の内容によっては、対応できる職員に限られる。

・上総掘りは 技術についての問い合わせが多いが、後継者の育成の遅れや、民俗学専門の学芸員が不在のため、対応が難しい。

あるべき姿11 (35の展望⑳)

- ・一般の利用者同士が交流できるスペースがない。

◆今後の対応

あるべき姿 1 (35 の展望⑩)

- ・引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。
- ・アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。

あるべき姿 2 (35 の展望⑪)

- ・職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間をさらに多く設けるように努める。
- ・他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。
- ・昭和から平成といった近い時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させるように努める。
- ・常設展示への生物関係展示の導入の検討。

あるべき姿 3 (35 の展望⑫)

- ・市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要があり、特別展・企画展の準備期間は他の業務との重複について考慮するようにする。
- ・資料調査の時間を意識的に設けるようにする。

あるべき姿 4 (35 の展望⑬)

- ・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。
- ・市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。
- ・ワーキンググループは今後も必要に応じて結成し、活動する。
- ・市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場はさらに充実させる。

あるべき姿 5 (35 の展望⑭)

- ・多言語化については、アプリやカメラの翻訳機能等を活用し、早急に対応する。

あるべき姿 6 (35 の展望⑮)

- ・広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。
- ・公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。

あるべき姿 7 (35 の展望⑯)

- ・アンケートは引き続き実施する。
- ・公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。
- ・常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。

あるべき姿 8 (35 の展望⑰)

- ・新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的な PR 活動を進める。
- ・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。
- ・SNS 等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。

あるべき姿 9 (35 の展望⑱)

- ・学校図書館司書と直接情報交換するなど、学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークをさらに活用できる体制を整える。
- ・図書室常時開室へ向けて検討する。

あるべき姿 10 (35 の展望⑲)

- ・簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。

・上総掘りの高度な問い合わせにも対応できる民俗学専門の学芸員を配置する必要がある。 あるべき姿 11 (35 の展望⑩) ・利用者同士が交流できるスペースの設置について、検討する必要がある。	
I 活動目標	(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー
II あるべき姿 1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。 展望⑪ 2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。 展望⑫ 3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。 展望⑬ 4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。 展望⑭ 5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。 展望⑮	
III 令和5年度の取り組み内容 あるべき姿 1 (35 の展望⑯) ・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。 ：市民学芸員 43 名 ：博物館友の会 59 名 (令和6年3月末現在) ・市民学芸員養成講座の通年開催 11 回 ・上総掘り技術伝承研究会との協働による上総掘り講座の実施と記録映像撮影 ：上総掘り技術伝承研究会員 16 名 ：上総掘り体験講座回数 10 回 あるべき姿 2 (35 の展望⑰) ・企画展、ロビー展及び関連事業の実施 ・市民学芸員・友の会との自主企画展の実施 10 回 ・友の会主催「もっと知りたい講座」開催 ・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献 ：市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座 あるべき姿 3 (35 の展望⑱) ・根形公民館との連携を継続して行った。 ・市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や公民館講座で地域散策を行った。 ・夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。 ・公民館との連携の促進 ：根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座 協力した公民館講座の件数：10 件 根形公民館報 原稿提供 1 件	

あるべき姿4 (35の展望④)

- ・ 小学校3年生、6年生の校外学習支援
： 13校 (3年生7校、6年生6校)
： ボランティア参加延べ人数 51人
- ・ 実物資料、教材の貸し出し 3件
- ・ 教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 5件 (小学校4・中学校1)
- ・ 小中学生の調べる学習への支援 14件
- ・ 教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。
- ・ 山野貝塚体験学習プログラムの構築と実践

あるべき姿5 (35の展望⑤)

- ・ 市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 10件 (公民館講座含む)
- ・ 君津地方公立博物館協議会へ参加
： 研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。
- ・ 全国博物館大会への協力と参加
- ・ 千葉県博物館協会への参加
- ・ 千葉県史料保存活用連絡協議会への参加
- ・ NPOとの連携。
： 情報交換 (しいの森里山会、盤洲干潟を守る会)

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。展望①	市民学芸員・友の会員の会員数	105人	106人	◎
2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。展望②	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	5回	10回	◎
3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。展望③	公民館講座への協力・講師派遣	3件	10件	◎
4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。展望④	校外学習支援ボランティア (市民学芸員等) 参加人数	延べ55人	延べ51人	○
5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。展望⑤	他団体との連携事業の実施回数	3回	3回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・ 市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。
- ・ 市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに7名が市民学芸員となった。

- ・上総掘り講座と記録映像により、上総掘り技術の担い手育成の基盤が整った。
- ・市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。

【目標値】市民学芸員・友の会の会員数

目標値 105 人：実績値 106 人

あるべき姿 2 (35 の展望②)

- ・企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。
- ・友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。
- ・市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力ができた。

あるべき姿 3 (35 の展望③)

- ・根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。
- ・博物館が歴史や文化の拠点であること、情報を集積させている施設であることを印象付けることができた。
- ・市民会館等、公民館の講座等での利用が拡大し、博物館の活動について、さらに多くの市民に周知することができた。

あるべき姿 4 (35 の展望④)

- ・博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。
- ・袖ヶ浦高校の協力により、高校へのアウトリーチが実現した。
- ・教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、連携が密になり、学校と博物館の距離が近くなった。
- ・山野貝塚体験学習プログラムの構築により、中学校へのアピールができた。

あるべき姿 5 (35 の展望⑤)

- ・社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。
- ・全国博物館大会では、実行委員やスタッフとして協力し、関連巡回展にも会場として協力した。
- ・日本博物館協会から依頼を受け、博物館研究にて博物館事業の紹介をすることができた。
- ・千葉県史料保存活用連絡協議会の会報で博物館事業の紹介をすることができた。

◆課 題

あるべき姿 1 (35 の展望①)

- ・参加する市民学芸員・友の会員の固定化や高齢化が進んでいる。
- ・新規参加者についても、継続のための工夫が必要。
- ・市民学芸員・友の会といった形にこだわらない協力者との新たな協力体制の確立。
- ・市民学芸員と友の会員との交流が少ない。

あるべき姿 2 (35 の展望②)

- ・博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。
- ・公民館講座への出前は増えているが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。

あるべき姿 3 (35 の展望③)

- ・地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。

あるべき姿 4 (35 の展望④)

- ・コロナ禍の影響により一部の体験メニューが実施できなかった。

あるべき姿 5 (35 の展望②)

- ・積極的に地域の企業や NPO との連携が図れていない。

◆今後の対応

あるべき姿 1 (35 の展望①)

- ・さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人が活動に関心を持てるように促す。
- ・講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。
- ・市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。
- ・市民学芸員と友の会合同の研修会等を企画する。

あるべき姿 2 (35 の展望②)

- ・博物館を利用する機関・地域・団体等同士の連携を博物館がサポートする。
- ・根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。
- ・公民館・図書館との連携をさらに促進する。

あるべき姿 3 (35 の展望③)

- ・市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。
- ・地域連携による成果を発信できるように努める。

あるべき姿 4 (35 の展望④)

- ・さまざまなシチュエーションを想定し、アウトリーチの拡大や新たなプログラムの開発等について、さらなる検討が必要。
- ・博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。

あるべき姿 5 (35 の展望⑤)

- ・企業や NPO 等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。

I 活動目標 (5) 安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー

II あるべき姿

1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望②⑥
2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望⑦
3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望⑧

III 令和 5 年度の取り組み内容

あるべき姿 1 (35 の展望⑥)

- ・定期的な施設、設備の点検の実施
- ・急な故障や破損等の修繕：修繕 5 件
- ・計画的な修繕工事 令和 5 年度実施なし
- ・月 1 回の安全点検の実施

あるべき姿 2 (35 の展望⑦)

- ・高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。 49 件 (534 人)

あるべき姿 3 (35 の展望⑧)

・本館において火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施した。1回 ・旧進藤家住宅において避難訓練・消火訓練を実施した。1回				
Ⅳ 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望②⑥	施設の安全点検の実施回数	12回 (月1回)	12回 (月1回)	◎
2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望②⑦	福祉施設見学受け入れ件数	30件	49件	◎
3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望②⑧	防災訓練の実施回数	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	◎
◆成果・効果 あるべき姿1 (35の展望②⑥) ・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 ・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。 あるべき姿2 (35の展望②⑦) ・高齢者施設からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。 あるべき姿3 (35の展望②⑧) ・避難訓練・消火訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。				
◆課 題 あるべき姿1 (35の展望②⑥) ・年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生する。 ・不具合の発生に伴い、事務の対応に時間を有する。 ・改修計画が立てられていない。 あるべき姿2 (35の展望②⑦) ・館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、以前からの施設的な課題は解消されていない。 ・外国人でも見学できる環境（多言語化対応）が整備されていない。 あるべき姿3 (35の展望②⑧) ・地震を想定した避難訓練も実施する必要がある。				
◆今後の対応 あるべき姿1 (35の展望②⑥) ・修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。 ・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。 あるべき姿2 (35の展望②⑦)				

・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。 ・外国人への環境整備については、可能なことから対応を進める。 ・利用者からの要望をリサーチする必要がある。 あるべき姿3（35の展望⑳） ・さまざまな災害を想定した避難訓練を計画的に実施していく。				
I 活動目標 （6）博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献				
II あるべき姿 1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望㉑ 2. 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望㉒ 3. 収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望㉓				
III 令和5年度の取り組み内容 あるべき姿1（35の展望㉑） ・夏の単発イベント「ジュニア学芸員体験」の袖ヶ浦公園周辺での実施 ・袖ヶ浦公園主催事業への協力 ・市原歴史博物館との調査研究協力（出羽三山信仰関係等で相互に情報交換） あるべき姿2（35の展望㉒） ・市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援 ・市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアを育成 ・市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究 ・フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 2回 ・山野貝塚ボランティア育成の協力（生涯学習課事業） あるべき姿3（35の展望㉓） ・高齢者との交流、回想法の試み ：高齢者施設の見学受入れ ：公民館高齢者学級の見学等受入れ ・企画展・常設展による高齢者等の生きがいの創出				
IV 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望㉑	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	1回	2回	◎
2. 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望㉒	市民学芸員養成講座実施回数	10回	11回	◎
3. 収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望㉓	高齢者学級等への協力回数	1回	1回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。
- ・市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。
- ・企画展という具体的な目標を持つことにより、活動を計画的に進めることができた。
- ・研修に参加することで市民学芸員や山野貝塚ボランティアの向学心を刺激することができた。

あるべき姿3 (35の展望㉪)

- ・展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。
- ・企画展Ⅰ「井出先生の写真館」は、高齢者層にとって身近な故人をしのぶ機会となり、博物館も情報を得ることができた。

◆課 題

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・大学や研究機関と連携した事業展開が図れていない。
- ・袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。
- ・市原歴史博物館とは、今後更なる協力体制の強化が求められる。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。

あるべき姿3 (35の展望㉪)

- ・これまで単発的な活動しかできていない。
- ・公民館高齢者学級等との連携がなされていない。
- ・戦争体験等のある高齢者が年々少なくなっている。

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・特別展等の成果を元に、大学や研究機関との連携について検討する。
- ・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。
- ・他機関との連携について、先進事例を調査する。
- ・市原歴史博物館との連携を進める。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。
- ・研究発表しやすい環境を整える。
- ・企画展開催や報告書刊行など、調査の成果として具体的な目標を掲げる。

あるべき姿3 (35の展望㉪)

- ・日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。
- ・公民館講座との連携や屋外施設を活用した健康講座の実現に向けた情報提供。
- ・戦争体験等についての聞き取りは機会を設けて引き続き行う。

I 活動目標

(7) 博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加

II あるべき姿

1. 館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望③②
2. 館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③③
3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望③④
4. 館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③⑤

III 令和5年度の取り組み内容

あるべき姿1 (35の展望③②)

- ・全国博物館長会議への出席
- ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席
- ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席・

あるべき姿2 (35の展望③③)

- ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席
- ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席

あるべき姿3 (35の展望③④)

- ・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加
- ・君津地方社会教育研究会への参加
- ・『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿
- ・他機関から依頼された講座での講演。

あるべき姿4 (35の展望③⑤)

- ・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会・君津地方社会教育研究会主催の研修会への庶務系職員の参加
- ・その他研修会への庶務系職員の参加

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望③②	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	2回	◎
2. 館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③③	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	7回	◎
3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望③④	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	1回	◎
4. 館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③⑤	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望②)

- ・全国博物館長会議に参加し、最新の博物館事情を収集して、博物館運営の参考とすることができた。
- ・関東地区博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会の理事を務め、他館の館長と情報を共有することができた。

あるべき姿2 (35の展望③)

- ・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等に参加し、知見を深めることができた。
- ・千葉県博物館協会の地域振興委員を務め、他館の職員との交流し情報を共有することができた。

あるべき姿3 (35の展望④)

- ・君津地方社会教育研究会主催の研修会に参加し、知見を深めるとともに、他市職員と交流し情報を共有することができた。
- ・根形公民館地域再発見講座をはじめ、他機関で講演することで、博物館活動の一端を周知させることができた。

あるべき姿4 (35の展望⑤)

- ・説明会等に出席し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。

◆課題

あるべき姿1 (35の展望②)

- ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。

あるべき姿2 (35の展望③)

- ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。
- ・研修等で得た人脈を活用し、研修後も情報交換等で交流を続けることが望ましい。

あるべき姿3 (35の展望④)

- ・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。

あるべき姿4 (35の展望⑤)

- ・庶務系職員の研修の機会が少ない

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望②)

- ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。
- ・オンライン会議には積極的に参加する。

あるべき姿2 (35の展望③)

- ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。
- ・オンライン開催には積極的に参加する。

あるべき姿3 (35の展望④)

- ・引き続き、交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。

あるべき姿4 (35の展望⑤)

- ・希望する研修会には出席できるようにする。

5. 令和5年度 運営に関する点検・評価

(1) 地域の資料を守る－資料の収集と保管－ 3項目 評価A

施設の老朽化や収蔵庫の収蔵スペースの問題など、施設的な制約はあるが、日常の環境管理により収蔵環境は可能な限り適正に保たれており、資料の整理や収集も計画的に進めることができていく。今後もこの取り組みを継続するが、燻蒸剤の販売中止により、展示・収蔵環境の管理についてはさらなるIPMの徹底が求められていくことが予想される。

(2) 地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－ 6項目 評価A

企画展等を契機に資料調査を実施し、その成果を展示や講座、市史研究等で発表するというように、調査研究と活用の循環ができていくが、継続した調査研究のためには専門職員の調査研究の時間を確保する必要がある。調査研究成果の発表の場として、ホームページ等のさらなる活用も検討する。

(3) 学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信 11項目 評価A

展示更新については調査研究に基づいて企画展を年2回実施し、市民学芸員と協働で行うなど、市民の要望も考慮しながら実施できている。情報発信や情報提供サービスについては、あまり活用されていない図書室や物流ネットワーク、QRコード活用、多言語化等、改善点が多い。職員の世代交代に伴う問題にも対応していく必要がある。

(4) 地域のつながりを活かす－市民参画と地域連携－ 5項目 評価A

市民学芸員や友の会の活躍、根形公民館との連携強化、博学連携事業の成果により高い評価となっている。民俗文化財等伝承・活用事業は最終年度に当たり、記録映像撮影をはじめ講演会・技術伝承用記録誌と上総掘り技術伝承研究会との連携を深めることができた。地域の企業やNPOとの連携は、課題である。

(5) 安心・安全な施設にする－施設の維持管理と来館者への配慮－ 3項目 評価A

施設については、老朽化による不具合が時々発生するが、適宜対応できている。福祉施設の団体受け入れは積極的に進めており、年々利用者も増えているが、昭和時代の展示を充実させるなど高齢者にとって親しみやすい展示をさらに工夫する必要がある。防災訓練については、本館と旧新藤家住宅で火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施したが、地震等さまざまな災害を想定した訓練を計画的に実施していく必要がある。

(6) 博物館の社会的役割を意識する－地域への貢献－ 3項目 評価A

袖ヶ浦公園を博物館事業で活用することで、公園の魅力や可能性を参加者に提示することができた。ボランティアを育成し、博物館事業を協働で行うことで、文化財への理解促進や各個人の生涯学習に貢献することができた。高齢者の多いグループを受け入れることにより高齢者の生涯学習や生きがい醸成に貢献することができた。高齢者については、グループによる参加者だけでなく、個人の楽しみや生きがいとして博物館を活用してもらえるように、展示等に工夫が必要である。

（７）博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加 **４項目 評価A**

研修については、各職員が情報を収集し、希望する研修には参加できている。日頃の研究成果を発表する場としては、他機関からの講師依頼も増えている。館主催事業「袖ヶ浦学」や『袖ヶ浦市史研究』も研究成果発表の場として、さらに活用を進めたい。